

令和九年度
新年福運祈願

◎蓮華院金剛寺

平成元年より厳修されてきたお護摩
令和の時代こそ…一念の祈りを

護摩祈願木札

【木　札】
個人普通祈願

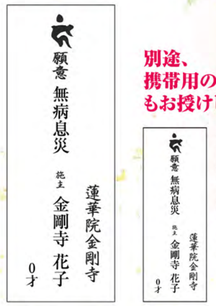
【大木札】
個人半年祈願
個人一年祈願
企業普通祈願

【特別大木札】
企業半年祈願
企業一年祈願



高さ45.5cm　横幅 9.0cm　厚さ 0.8cm
高さ54.5cm　横幅10.5cm　厚さ 1.3cm
高さ60.5cm　横幅11.0cm　厚さ 1.5cm

木札に
願主お一人お一人
の祈願証をお授けします



別途、
携帯用の祈願証
もお授けします

鞄や肌身に付けて毎日持ち歩くものです。

お申込方法

専用の『新年福運祈願申込書』に記入して、次の方法でお申込ください。

①本部に持参
②郵送
③ファックス　082-222-0430
（ファックスされた申込書は控えでお持ちください）
④蓮華院金剛寺ホームページ
http://www.kongoji.org/

木札のお届けについて、下記のいずれかを選択してください。

①広島・福岡・熊本の精舎で受け取り
（1月1日の午前中、もしくは1月6日以降）
②宅急便で受け取り
（1月1日より着日指定ができます）
※送料については申込書をご確認ください。

申込締切　令和8年12月15日(火)

◎蓮華院金剛寺
〒730-0016 広島市中区幟町5-1 広喜ビル5F
TEL 082-222-0910　FAX 082-222-0430
URL http://www.kongoji.org/　E-mail center@kongoji.org

231026

弘法大師空海　伝来の秘宝



蓮華院金剛寺
開山者 法主
木原秀成



真言密教 開祖
弘法大師空海





蓮華院金剛寺　庵主 妙泉　俗名 山内紀枝

時は延暦23(804)年、平安時代。
日本から4隻の遣唐使船が、当時、世界の文化都市であった長安へ向けて出発しました。その中には、当時まったくの無名の私度僧であった若き日の空海が乗っていました。当時の造船技術では、渡唐は長い長い苦難を経ての命がけの旅で、空海が入唐した際も4隻の船団の内、唐に辿り着いたのは2隻だけでした。
唐では皇帝の篤い帰依を受け最盛期の頂点にあった密教。その頂点にいたのが伝法大阿闍梨恵果和尚だったのです。空海をひと目見た恵果は…「わたしはあなたが来るのを待っていた。私の命は尽きようとしているが、教えを伝えるにふさわしい弟子がいない。これから速やかにあなたに伝えよう」
空海は数千人の門弟を差し置いて、通常20年かかる密教のすべてを3ヶ月で学び終え、帰国した後、真言密教を開きます。「虚しく往きて実ちて帰る」の言葉どおり、わずか2年の間に得たものは計り知れず、まさに護摩の修法は、空海によって奇跡的に日本にもたらされたのです。
昭和59年7月21日、昭和60年11月20日の2回に亘り、弘法大師空海との霊的結縁をいただいた開山者 法主木原秀成は、多くの方々の祈願成就を願って、座を重ねる「新年福運祈願」を平成元年よりはじめました。
令和2年より、直弟子である妙泉(俗名山内紀枝)があとを継ぎ、諸神仏並びに弘法大師空海様、師木原秀成のご加護のもと、例年の如く座を厳修してまいります。

不動明王7座福運祈願 日程

初座　2026年12月22日(火) 10:30～
2座　2026年12月23日(水) 2:00～
3座　2026年12月24日(木) 2:00～
4座　2026年12月25日(金) 2:00～
5座　2026年12月26日(土) 2:00～
6座　2026年12月27日(日) 2:00～
満座　2026年12月28日(月) 10:30～

※2:00は深夜の座となります。

7座　毎座厳修の過程

懺悔行108回

祈願をするために、まず懺悔することはとても大切です。
私たちは多くの足らざる所を陰に陽に助けていただきながら生活しています。
だからこそ、お願い事をしていく時には足らざるを反省したり、迷惑をかけていることを、自身の身を投げ出して(五体投地)懺悔するのです。
ここで行う懺悔行は、祈願される方々全員の懺悔をしていきます。

水　行

身を浄める行です。水は全てを洗い流すという意味があります。懺悔行をした後には必ず祈願の座に入る前に、真水により身を浄めるのです。

祈願の座

護摩祈願の作法により、不動明王に祈願をしていきます。不動明王のご真言を唱えながら、お一人お一人の願意・名前・年令を読み上げます。

1回の座で約1時間半～2時間位の時間を要します。
それを毎日1週間(7座)に亘って厳修致します。

木原秀成先生が他界された今も本堂に現存しているご神仏のエネルギー

本堂や精舎にお供えするりんごに現われる不思議な紋様



2019年7月18日　7月23日　7月31日　2020年6月　2021年8月には熊本の精舎でも

6月～9月ごろ、毎年のように現れていたりんごの紋様が、2019年5月に木原秀成先生が他界された後にも出現。今なお本堂に現存するご神仏のご加護を目の当たりに見せていただく出来事であります。

本堂のろうそくに顕現された仏様



2021年2月 大壇　2022年9月 護摩壇　2023年12月 大壇　2026年9月 大壇

新年福運祈願の歴史

木原秀成先生の護摩祈願中の炎に現れた仏様



煩悩浄化　十一面観世音菩薩様　観世音菩薩様　龍王(神)様



開山者 法主 木原秀成先生

令和二年度の祈願より庵主 妙泉が座を厳修　木原秀成先生と共に行じておられるのか、不思議にも紫の幻影が…



平成元年から続く伝統
新年とびきりの福運を招く!!

2027年の福運を招き入れる

一年というのは本当に早いもので、今年もあと僅かになりました。新しい年に向けて、もう助走は始まっています。今年も例年の如く「新年福運祈願」のご案内を致します。

開山者　法主　木原秀成は真言密教の僧侶であり、この福運祈願は平成元年より始まりました。

通常、神社仏閣では、一座のみの祈願がほとんどですが、蓮華院金剛寺の「新年福運祈願」はお一人おひとりの願意を七日間、七座にわたって祈願します。

毎回の座は、懺悔行、水行、内護摩を経て、本来の護摩の火入れとなる厳粛なものです。

さらに特別祈願者には、毎月二十八日に願意を祈願し、お札をお送りします。

師木原秀成に30年以上に亘り直弟子として指導をいただいてきました妙泉(俗名山内紀枝)が、今年も座を務めさせていただきます。

火の持つ神秘力と祈願力が一体

護摩とは、ホーマーと言い「火」を意味します。

私たちは毎日の生活に追われるうちに、身・口・意がいつの間にか、貧(むさぼり)瞋(いかり)痴(無知)の煩悩によって、汚れてしまっているのです。

身・口・意が汚れているとお化粧のりが悪いのと同じで、どんなに努力しても良い結果が生まれません。ですから、護摩祈願は、身・口・意を浄めていくことになるのです。

師木原秀成は、祈願成就を他力本願で願うのではなく、自らが何事にも動じない不動明王のごとき境地となり成就を誓うものだとお教えくださいました。

想いは「スプーンをも曲げる」と言いますが、火の持つ神秘力と真摯な祈願力が一体となると、悪い運命果が浄化されたり、祈願が成就したり、奇蹟が起きたり、運力が好転したりするのです。

昔も今も「お百度参り」など願掛けは、多ければ多いほど、願いごとは叶うのです。

一座の祈願ではなく、七座を祈願する意味もここにあります。

七座のエネルギーが福運を導く

ますます広がる貧富の二極化や不平等格差階級社会の恐怖、貧困社会の到来、残酷さを増している凶悪犯罪など、暗い世情を吹き飛ばそうと、毎年多くの方が祈願されていらっしゃいます。

新しい一年の明るい兆しを願って、一人でも多くの方がご祈願をされれば、それだけ世の中の波動が変わるのです。

だからこそ、個人と企業の繁栄を願って、皆様にご案内致します。